

## 2009 マリンバイオ同好会 1 学期活動状況

### ○ 春休みの活動

春休みは、新入生を迎える 4 月からの本格的な活動実施に向け、施設内の整理整頓や、新たに始める海洋高校棧橋における魚類相調査の計画、部費徴収の立案などを行い、新年度の活動方針を検討し、準備する期間となりました。



### △魚類相調査の練習

カゴ採集・目視による魚類相調査と、フォーレル(水色計)・表面水温・気温を毎日測定し、海洋高校棧橋において、季節により出現する魚種にどのような変化がみられるのかを調査していくことにしました。



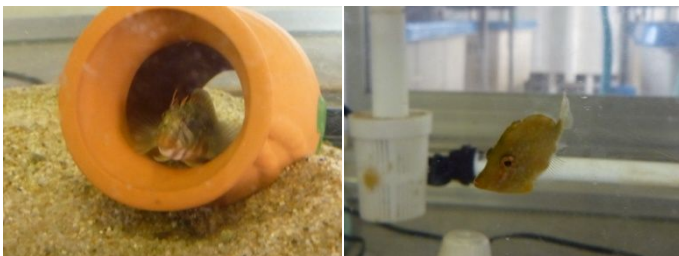
### △施設整備

### ○ 魚類相調査本格始動

4 月 1 日から魚類相調査を本格的に始動しました。新学期からは新入部員 2 人が戦力として加わり、さらなる活動の充実を目指します。



カゴは棧橋ポンプ前の水深 10m に設置しました。採集生物の一部は、60cm 水槽で飼育しています。

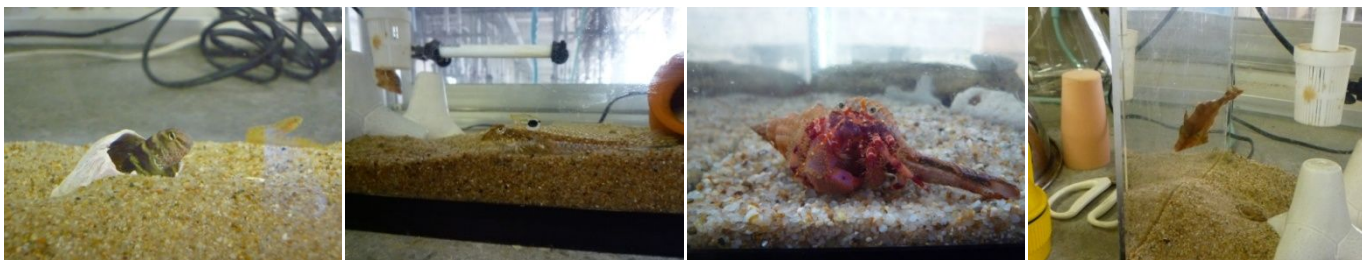


左の写真は「イソギンポ」、右は「アミメハギ」です。よく人に慣れ、飼育しやすい魚種です。この他、ランチュウ・メダカの飼育管理も始めました。



## ○ 採集生物の飼育

本年度から徴収を始めた部費を使い、40cm水槽 2 基を購入し、もともとある 60cm水槽と合わせて、棧橋で採集した生物の飼育をしています。以前に比べ、飼育する魚種数も多くなっています。



△飼育中の採集生物、左から「ナベカ」「ネズミゴチ」「ベニホンヤドカリ」「ヨソギ」。

主な採集方法はカゴ、投網、釣り、タモ網です。毎日行っているのはカゴ採集で、エサを入れていないにも関わらず、魚類以外にも様々な生物が入ってきます。魚類では、カサゴ、メバル、ホシササノハベラがよく入り、その他、ヒトデやウミウシ、ヤドカリなども入ってきます。5～6月にカゴ採集で確認された生物のうち、個体数が最も多かったのはヤマトホンヤドカリでした。



△左から「イソウミウシ」「ヒカリウミウシ」「ヤツデスナヒトデ」「クロコソデウミウシ」

エムラミノウミウシという美しい個体も採集されたことがあるのですが、残念ながら写真はありません。

## ○ 魚類相調査(6月20日 島陰沖)

実習船「かいよう(19t)」を使って魚類相調査を行いました。冠島沖での調査予定でしたが、当日の天候を考え島陰沖に変更しました。小さなアジとトウゴロウイワシ、カサゴ、メバルなどが釣れました。



到着後すぐにプランクトンを採集、その後釣り採集を始めました。風が強くなり、天候が悪化してきたため、早めの撤収となりました。帰港後は漁獲魚種の判別と測定を行いました。



## ○その他の活動あれこれ

普段は各飼育水槽の管理と、海洋棧橋魚類相調査とそのデータ整理を主な活動としています。現在、栽培漁業実習棟は少しずつ整理整頓され、多種の魚が飼育されるようになりました。それはマリンバイオ同好会が生物を飼育管理できる環境、状態になるよう整備し続けているからです。地道な作業の多い活動内容ですが、みんなが飼育管理者として毎日がんばっています。



△ヒラメ稚魚の分養（6/20）

△投網採集(7/11)

左 4 枚の写真は今年栽培漁業実習棟で産卵、ふ化した稚魚の分養(分槽)を行っているところです。過密飼育による成長不良と病気を避けるため、必ず必要となる作業です。また、共食いによる著しい減耗を抑える効果などもあります。右 4 枚の写真は海洋棧橋横での投網採集の様子です。マガレイ、ネズミゴチ、トビヌメリなどが採集されました。マガレイ、トビヌメリは、5月5日に行った投網採集では見られなかった魚種です。水温上昇とともに採集、目視観察される魚種が増えてきました。これらの調査データは、いずれまとめて発表したいと思います。

